2025 年度

ケヤキッズ保育園の自己評価

【自己評価結果の公開について】
「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。
この事を踏まえ、ケヤキッズ保育園ではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育園の専門性・組織力を高め、 保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めて参ります。

1、保育目標

年齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
ねらい	集団生活の中で子ども同士で行動を観察し模倣することの喜びを味わうことで社会性の発達が身に付き、豊かな人間関係を築く	認め合い、励まし合うなど子ども同士で関係を広げ、相手の立場を気遣う感受性を持つ事で情緒が豊かになり集団で行動することを喜び楽しむ	自主性、仲間意識、課題意識が育ち、自覚と自信をもって、社会生活に必要な基本的な能力を身に付け、集団生活を楽しむ

2、1 年間の取り組み状況

＜こどもが育っていく環境構成＞

2025 年度も月に一度、理事長・統括園長・園長・副園長・主任・各学年リーダー・若手保育士・ベビールーム園長・スマイルルーム園長・アーティストルーム児童発達支援管理責任者・評議員の野村義先生・聖徳大学の吉田先生の 11～14 名で、こどもの育っていく環境や保育士の悩み事ついて、継続的に話し合い（育ちあいアカナコカーナ）を行った。若手保育士が参加できたことで、保育現場の士気が高まり、保育士一人ひとりの肯定感が増し、よりよい保育の実践につながった。

＜廃材遊び＞

法人理事のこども環境デザイン研究所の矢生先生にご協力いただき、アトリエの在り方と廃材での遊び方・保育士の関り方について園内研修を行った。こどもの興味を引き出す廃材の配置や色分け、こどもの様子から見えるこどもの気持ち、保育者自身も廃材で遊びながらこどもを見守ることを学んだことで、アトリエでの活動が深まり充実した活動へと発展するこ

とができた。

＜サツマイモの収穫＞

５月にサツマイモの苗を植え、５歳児を中心に水やりを行い、成長を見守った。日に日に大きくなる葉に興味を持ちながら時を過ごし、11 月には、ベビールーム・スマイルルームの２歳児とともに収穫を行うと、こどもたちから自然と異年齢で関わる姿を見せてくれた。

＜地域交流・枝豆収穫＞

6 月に 4.5 歳児が近隣の枝豆農家さんの畑に行き、枝豆の収穫を体験した。農家さんの話に耳を傾け、収穫を楽しむことができた。農家さんとの交流が、こどもたちの心に残る出来事となった。

＜食育計画と保健計画＞

食育計画では、月に一度、栄養士による食育活動を行った。栄養士の話に耳を傾け興味関心をもって話を聞く姿が多く見られ、食事の時間に野菜の名前を口にしていた。

保健計画では、こどもたち自身がハンカチを持参する習慣を身に着けた。手洗い後は、自身のハンカチで拭く、鼻水はティッシュで拭くなど、自身で気づくことができるよう、保育士も熱心に声をかけた。

＜アカナコカーナ＞

保護者の悩み質問等に丁寧に寄り添い関わることで、園への信頼を深めることができた。アカナコカーナ期間以外でも、保護者の様子を見守り声をかけ話す時間を設けるなど、園からの関りも実践することで、保護者の安心へと繋げていった。

＜避難訓練＞

有事の際、慌てることなく冷静に行動できるよう、訓練予定を伝えないシークレット訓練を実践することで、課題が明確になり、課題を解決する方法を考えることができた。

＜医療的ケア児＞

２名の看護師を中心に、経鼻栄養と淡吸引のケアを行いながらこどもの成長を見守り続けた。生活リズムを整えるため根気よく関わるとこで、名前を呼ばれたら返事ができる、挨拶ができる、コップでお茶を飲むことができる、午睡をするといった基本的生活習慣を身に着けることができた。入園当初よりも笑顔が増え、たくさんのこどもたちと関わりながら伸び伸びと過ごすとこができている。

＜自己評価＞

年２回、自己評価を行うことで自身の課題に気付くことができた。実践と振り返りを繰り返しスキルアップに繋げていった。

＜普通救命講習と心肺蘇生法訓練＞
保育士２名が普通救命普及員の認定を取得し、毎月、園内で行っている心肺蘇生法訓練を担ってくれている。認定取得が、２名の自信に繋がり活動ができていることがとても頼もしく園の士気を高めている。

＜児童発達支援士＞
保育士５名が、児童発達支援士の認定を取得した。発達に課題のあるこどもたちとの関りに自信を持ち、日々の保育に活かしながらこどもの育ちを見守っている。2026 年には、新たに５名が取得予定となっている。

＜松戸市の市立保育園代表としてインクルーシブ保育の発表と保育計画書類＞
２月に、松戸市主催の市内研修会にて、市立保育園代表としてインクルーシブ保育について発表する機会をいただいた。この発表は、ケヤキッズが取り組んできたこれまでの保育を振り返る良いきっかけにもなった。理事長・統括園長・園長・副園長・主任・各学年リーダーで何度もアカナコカーナを行いながら発表内容（パワーポイント）をまとめていった。その中で、こども家庭庁の研修会で学んだ書類の断捨離について取り入れる際、こども家庭庁へ許可をいただくべく連絡をしたところご快諾いただくとともに、私たちの取り組みを肯定してくださったことがとても嬉しく自信につながり、発表当日の勇気、そしてケヤキッズ保育園ひとり１人の肯定感が高まり園全体の士気も高まる、素晴らしい時間を過ごすことができた。(パワーポイント添付)

＜園庭遊具設置＞
園庭に、パーゴラと丸太三角山（おにぎり）を設置しました。パーゴラの下に縁台を設置することで休憩や座って遊ぶスペースに、おにぎりは、こどもたちの身体能力（筋力・バランス感覚）の向上を目的として設置した。
遊具の使い方については、こどもと大人全員で遊具を囲み、５歳児を中心にアカナコカーナと話しながら共通認識を図ることで、こどもたち一人ひとりがルールを守って遊んでいる姿があり、園全体でのアカナコカーナの成果を実感することができた。

＜園内のリノベーション＞
全ての保育室と廊下の壁紙と床を張り替え、1.2 階の保育室２カ所には、こどもが落ち着くことのできる場所として静養室を設置工事し、園内をリニューアルした。また、インクルーシブ保育（異年齢保育）を深めていくため、学年で使用していた保育室を４つのブース（アトリエ・プレイルーム・ランチルーム・ロッカールーム）に分けまとまりを持たせることで、こどもたちひとり１人が遊びに夢中になる姿が多くみられるようになった。アトリエでは、視覚的にも色毎に見せる収納を実践することで、こどもたちの活動意欲につながった。プレイルームでは、こどもたちの遊びのブームを取り入れながら、死角ができないように玩具を設置。

これは、保育士にとっても見守りやすい環境となり、こどもが遊び込める環境へとつながった。ランチルームでは、こどもたち一人ひとりが自身で配膳された食器をトレーに乗せて好きな席に運び食べるといった、自分自身で考え、決断し、行動するといったケヤキッズ保育園が考える主体性を発揮できるよう努めた。引き続き、こどもたちが主体的に生活できる環境を考えながら取り組んでいきたい。

3　1年を振り返って

今年度も昨年度に引き続き、こどもが育っていく環境構成に重点を置き、何度も話し合いを重ねてきました。それと並行して、園内のリノベーションを実現することで、インクルーシブ保育（異年齢保育）を深める準備を整えることができました。また、学年と異年齢グループでの生活を実践し、こどもたち同士の関りを大切に見守り、こどもたちや保育士間での話し合いを大切にし、こどもの主体性についても考えながら過ごしてきました。引き続き、こどもも大人も個性を輝かせながら過ごすことができるよう、また、皆様から信頼され安心できる園運営に取り組んで参ります。